

朝日 歌壇 俳壇



「日曜日のブローチ 23」 junaida

● 永田和宏選

ハモニカの傷痍軍人に与えよと我を行かせて
父動かしき (八尾市) 吉谷 往久
できるだけAIっぽくない文章で書いてくた
さいというブロンブト (大阪市) 加藤 成和
☆人はまだAIに負けないのだからAIがそう
言っていたから (東京都) 富尾 なつ
乳糖を痛みに効くと説きながら淋しげな顔は
けしてするまい (横浜市) 小林 瑞枝
戦争犯罪者がレッドカーペット歩き笑む異様
さにまた世界は金む (京都市) 森谷 弘志
「あなたらしい」私のことをよく知らない人
ほどそんな言い方をする (東京都) 上田 結香
背を丸め古びた日傘さしていた小さな陰を生
きて来し母 (河内長野市) 平岡 章子
夏日影時をかなしむものため海に向く椅子
置かれありたり (垂水市) 岩元 秀人
幾重もの蟬声の中を抜けてきて静かな朝の地
下鉄にいる (京都市) 後藤 正樹
風つくる作業台まで日は届き風のしっぽはき
らき光る (長野県) 千葉 俊彦

【評】吉谷さん、同じ地獄を潜り抜けてきた父には、施すという立場に立つことがとてもできなかったのだろう。加藤さん、書いたのがAIなのか人なのか見分けるのは既にかなり難しい。富尾さん、それを信じてしまう所でもう負けているかも。

◆ 川野里子選

仏壇の引き出しにある髪と爪手を合わせれば
無慈悲な静けさ (福井市) 佐々木祐香子
「兵隊さんは帰ってこい」と母は吾に玉音放
送の声を訳しき (東京都) 齊藤 彰
汀線に囲まれているわたしは捕らわれている
の守られてるの (新座市) 陸月くらげ
「原爆が投下されました」八月の天気やう
に聞こえる言ひかた (宇佐市) 長野 裕子
ホスピスの窓打つ風遠のきぬ先無き人の少し
笑えば (所沢市) 北原なすな
風つくる極意書あれば繙きぬ鳥の羽搏き象の
耳打ち (長野県) 千葉 俊彦
☆人はまだAIに負けないのだからAIがそう
言っていたから (東京都) 富尾 なつ
狙い目は元氣な金魚追わずともむこうから来
ると優勝者の弁 (大和郡山市) 四方 護
年老いて老人ホームに着地する月面着陸の心
地の足に (東京都) 中村三千代
鮎の口、鰓、胴、尻尾と串を刺す仕事終えれ
ばのこる生の香 (大津市) 阪倉 隆行

【評】一首目、亡き人の不在を突きつけられる。二首目、幼子に伝えた玉音放送の訳は母の心の声のように率直だ。六首目、鳥や象の作る風の何と詩的なこと。七首目、SF小説のような作品。AIに依存している「私」が淡々と描かれ怖い。

● 佐佐木幸綱選

アホやなの意味を教える海外の実習生が傷つ
かぬよう (和歌山市) 岡田 信也
初めての景色ばかりを見るようだ免許を返し
近所を歩く (川崎市) 和泉 明宏
横たわる父に朝刊手わたしぬ入院前はしなか
ったこと (七尾市) 田中 伸一
昔はね駅にいたんだ赤帽さん百円札で荷物委
ねた (市川市) 末長 正義
子に語る夫との思い出またひとつ空色パンツ
と真つ赤な水着 (町田市) 山田 道子
公園でスケートボードは迷惑と言われ止む無
く公道をゆく (熊本市) 貴田 雄介
卒業はしなかったけどギター持ち謝恩会には
出た友がいた (横浜市) 杉本 恭子
玄関に熊鈴カランと降り立つて老人ホームに
面会の客 (福島市) 安斎真貴子
仔牛の名は和牛協会に登録す社は漢字名札は
ひらがな (津市) 中山 道治
釣れぬ午後竿にすらりと赤とんぼ数えてみた
り揺らしてみたり (坂戸市) 飯島 進

【評】第一首、二句切れの歌。関西弁独特の表現のキビに触れて、みごと。外国人には分かりにくいのだろう。第二首、何十年ものあいだ、運転席から見てきた景色の中を歩く新鮮さ。第三首、父が入院して父と子の関係が一変した。

● 高野公彦選

この星の絶滅危惧種は一万を超す核兵器保持
する人類 (観音寺市) 篠原 俊則
停戦をのりくりりと弄ぶ戦争依存症ブーチ
ンよ (名古屋市中区) 甲斐方里子
一球一球沖縄県民をちびどんどんさせつつ手
にした深紅の優勝旗 (川崎市) 宇藤 順子
放送席の解説者までウェブをして甲子園の
夏終わたり (安中市) 鬼形 輝雄
直感で生きる妹モットーは早寝早起き非くよ
くよ主義 (富山市) 松田 梨子
待望の一冊抱くその先に関所のごとく待つセ
ルフレジ (中津市) 瀬口 美子
リビングのWi-Fiとまたつながつてスマホ
も喜んでる退院 (奈良市) 山添 聖子
天ぶらの枝の巧みなそば店の職人の故国はミ
ヤンマー (朝霞市) 岩部 博道
山林の相続放棄に少し触れ子は東の間の帰省
を終える (橋本市) 秋月 晶江
歌あれば一生遊べる場所問わず道具も要らず
金もかからず (仙台市) 沼沢 修

【評】1首目と2首目、各国の政治家たちが世界平和を考慮せずに行動していることへの深い憂いを詠む。3首目、沖縄方言「ちびどんどん」(胸がどきどきすること)を生かした歌。4首目、沖縄尚学高校の優勝を祝って解説者もウェブ。

短歌時評 鏡像としての女人短歌

山崎 聡子

戦後まもなく結成された女性歌人によ
る短歌結社「女人短歌会」の再評価が進
んでいる。同会は女性歌人の活躍の場が
限られていた時代に、歌誌「女人短歌」
を発行し、「女人短歌叢書」として女性
歌人の歌集出版を後押しした。現在では
語られなくなっていた彼女たちの物語を
伝えるのが、一昨年出版された濱田美枝
子の『「女人短歌」 小さなものの芽
生えを、女性から奪うことなかれ』であ
り、このたび発行された瀬戸夏子の『を

とめよ素晴らしき人生を得よ』だ。
瀬戸による熟を帯びた序文で語られる
とおり、近現代の短歌史において、与謝
野晶子のようなスターを除き、女性歌人
たちは傍流に追いやられ、ときにスキャ
ンダルの対象となってきた。本書には、
女性だけの会設立に懐疑的だった五島美
代子に「女なら認められない多くの女歌
人のために(中略)仲間入りするのが当
然ではありませんか」と追った長沢美津
の肉声が、並外れた知識人でありながら

「芥川龍之介の最後の恋人」という物語
を背負わされた片山廣子の晩年の静謐な
歌が、互いの歌の理解者であった葛原妙
子と森岡貞香の絆が、海外の女性作家た
ちのエピソードと重ねながら記される。
女性同士の連帯を示す「シスターフッ
ド」は、近年、文学の一大テーマとなっ
ている。しかし、女性たちは決して一枚
岩ではなく、ときに立場を違え、感情を
渦巻かせながら、それでも時代が彼女た
ちを結びつけた。その姿は現在を生きる
女性たちの鏡像であり、現代にもを書
く私たちの言葉も彼女たちの土台の上
に立っているといえるだろう。(歌人)

風信

第71回角川短歌賞 角川文化振興財団主
催。京大短歌会に所属する船田愛子さん(20)の
「雪の影」(50首)に決まった。投稿は未発
表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があり
ます。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横
に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661
晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、
俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録
し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発
表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があり
ます。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横
に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661
晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、
俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき

